

令和7年度第3回学校運営協議会議事録（発言要旨）

○開催日時

令和8年3月6日（金） 午後2時30分～

○開催場所

本校会議室

○出席者

◆学校運営協議会委員

出光委員、渡邊委員、古川委員、鳥越委員、佐藤委員

◆本校職員

栗原校長、長瀬副校長、吉居教頭、総括教諭（遠藤、小柴、久保、田村、小松原、黒瀧）
山口、吉田、鳶寄

分科会

学校評価・キャリア開発部会

●カリキュラムおよび科目開講に関する現状と課題

①学校側の現状と課題

- 教員の専門性や人員配置、設備状況により開講できない科目が存在する。
- 特に実技系科目やコンピュータ系科目は設備の制約が大きい。
- 基礎学力向上が社会的課題であり、学習習慣の定着が重要と考えられる。
- 生徒の進路への意識を高め、それに対する必要な学力向上を自覚させるため、面談の充実が必要である。

②生徒へのアンケート結果

- 「学びたい科目を学べた」と回答した生徒は93%。
- 一方で、希望が叶わなかった生徒への対応が課題として残る。

③委員からの意見

- 総合学科は科目選択の自由度が特徴であるため、抽選方式では意欲の高い生徒が履修できない可能性がある。実技系科目の人気集中に対し、事前説明会の実施や、抽選前に志望理由書を提出させることなどは評価できるが、さらなる工夫が必要と考えられる。

●ICT活用およびAIリテラシーに関して

委員より以下の指摘があった。

- 生徒一人ひとり個別最適化学習の重要性が高まっている。

- AI活用は急速に進展しており、適切な制御と情報リテラシー教育が不可欠である。
- 「どの情報を信じるか」「正解を見つける力」を育成するカリキュラムの必要性が今後問われると考えられる。

●教室・設備・講師確保の課題

①設備面の制約

- 教室不足により開講が難しい科目がある。
- コンピュータを使用する授業はPC台数が限られていることから履修人数を限定せざるを得ない。
- 一人一台端末（タブレット）をもっと活用した授業の工夫が必要なのではないか。

②講師確保の困難

- 特に総合学科特有の科目講師は高齢化が進み、後継者確保が難しい現状である。
- 教育委員会を頼った人材確保だけでは難しく、学校独自で探す必要がある。
- 他校との講師共有は地域的距離の問題から困難なことが多い。

③委員からの提案

- 保護者にも様々なスキルを持った方がおられることは予想できるので、その方の専門性を活用した講座開設の可能性を探ってみてはどうか。複数の保護者で一つの科目を受け持つようにするなど、負担を分散する仕組みの検討をしてはどうか。

●オンライン授業・オンデマンド授業について

- オンライン配信授業は特別な事情がある場合にのみ実施可能としている。生徒の意欲や取り組み姿勢の観点から、通常実施は難しい。
- オンデマンド授業による単位認定は制度上困難である。

●キャリア教育・課題研究の現状と課題

①現行のキャリア教育の流れ

- 1年次：産業社会と人間という科目による広い意味の社会理解を学んでいる。
- 2年次：前期は研修旅行の準備とも言えるグループによる学習活動を実施し、後期は生徒個人による探究活動が始まる。
- 3年次：2年次から引き続き探究活動を実施し、その成果を発表している。探究活動を基として進路への接続を図っている。

今後も基本的な構造は維持していきたいが、担当できる人材の確保が難しく、内容の充実が課題である。

②委員からの提案

- 専門学校・大学調査を課題研究に取り入れ、生徒同士の発表を通じて進学意欲を高めてはどうか。
- 職業人インタビューの対象として保護者を活用するのも良いと思う。保護者にとっても自らのキャリアを振り返る機会となり、教育参加の促進につながるのではないか。

●基礎学力の重要性と学習習慣定着への課題

- 学力型総合型選抜が増加しており、基礎学力の不足が課題である。
- 普通科に比べ、基礎科目の履修が少なく、楽な科目（単位修得が比較的容易と思われる科目）に流れやすい傾向がある。
- 楽な科目と思われないような取り組み、例えば年間の振り返りを長文のレポート提出必須とすることで、文章力向上にも活かせるのではないか。

●AI利用によるレポート課題への対応

職員より、AIによる作成が疑われるレポートへの対応が困難との相談があった。

委員からは以下の提案があった。

- AI利用を禁止するのではなく、利用過程（プロンプト・思考過程）を提出させてはどうか。
- ポートフォリオ形式で「どのような過程で回答に至ったか」を重視した評価としてはどうか。
- 発表を通じて内容の妥当性を生徒同士で議論し、AIの使い方を学ばせるのも一案。

●進路指導について

職員より、総合型選抜を希望する生徒には対策を実施しているとの説明があり、委員からは以下の指摘があった。

- 総合型選抜は比較的レベルが高いと考えられ、志望先によっては学力選抜の方が適する場合もある。
- 早期合格者はその後の授業が「消化授業」にならないような配慮が必要と思う。

地域連携・防災部会

●生徒指導・生徒支援について

①生徒指導（身だしなみ等）

- 多くの生徒は指導を素直に受け入れているが、一部の生徒では服装や頭髪の乱れ等が見られる。
- 本校生徒として外部に出る機会も多いため、正しい身だしなみを継続して指導する方針である。
- 通年指導を重ねた結果、4月当初と比較すると改善は見られるが、引き続き年次を中心に身だしなみ（主に服装・頭髪）指導を行う。

②生徒支援

- 近年、家庭環境など生徒の生活環境の変化により不安や困難を抱える生徒が増えている。
- 神奈川県実施の「かながわサポートドック」を年2回実施し、心配な傾向が見られる生徒を抽出・把握し支援につなげている。
- これについては、教員への負担が増しているのではないかと委員より意見が出た
- 本年度は支援につながる生徒も多く、この制度が有効に機能したと考えている。
- 一方で、生徒への支援が特定の教員に偏るといった課題があり、来年度は支援が必要とされる生徒に関係する教員による「教育相談ミーティング」を設け、チーム体制で支援を行う予定である。

●生徒の主体性育成・学校行事・部活動について

- 学校行事や委員会活動において、生徒が主体的に役割を考え行動できるよう指導してきた。
- 主体的な取り組みは見られるものの、教員の意見に寄りかかる場面もあり、改善の余地が残る。
- 行事の成果は概ね出ているが、生徒全体の能力向上をさらに図りたい。

部活動加入率と実績

- 運動部加入率：約25%、文化部加入率：約29% 合計：約54%強の生徒が加入
- ダンス部、バスケットボール部、野球部、バレー部、陸上部等が県大会に出場。
- ダンス部は全国レベルの大会にも参加し、入賞している。
- ただし、活躍する生徒数は限定的であり、部活動参加への裾野拡大が課題である。

●服装・校則・生活面に関する意見交換

①支援体制について

- 生徒の困りごとは支援チームで情報共有し、必要に応じて教科担当でケース会議を行い、今後の指導方針を決めている。
- また、保護者対応が必要なケースではスクールソーシャルワーカーと連携している。

②校則と服装

- 生徒は個性を出したい思いが強く、髪色や服装で教員と意見のぶつかる場面がある。
- 校則として、髪染め禁止や制服の基準を定めており、校外でスウェットを着用するなど、登下校時の服装の乱れが課題として挙げた。
- 委員より登下校のマナーや服装の乱れについて指導を継続・強化してほしいとの指摘があった。

③昇降口での着替え

- 一部の女子生徒が昇降口でスウェットに着替える行為が見られる。流行や防寒等の理由があるが、学校としては好ましくないため、来年度からは指導方法を検討・吟味し、指導を継続する。

④アルバイトの状況

- 部活動に参加していない生徒の多くがアルバイトをしている。
- 主に飲食店での勤務が多いようである。
- その中には学費については保護者が負担するが、趣味に必要な費用を自分で負担するために働く生徒もいるようである。

●地域連携および広報活動について

①広報活動

- 私立高校の魅力発信が強まり、公立の存在感が相対的に弱くなっているため、広報活動の更なる強化が必要。
- 全公立展では4,000部の資料を配布し、多くの来場者に情報発信した。
- 中学校訪問は今年度11校で実施。
- 学校見学や説明会はもう少し回数を増やし、保護者・中学生の参加を募りたい。
- 今まで、学校公開の際、部活動については保険加入の面などから見学のみとしていたが、本年度は初めて「部活動体験」を実施し、来年度以降も拡大を検討する。
- 委員より、オープンキャンパスのような校内公開の機会をもっと増やしてほしいとの意見があった。
- また、本校のホームページについて、掲載する内容や周知の方法についてもっと工夫が必要との意見が出た。

②地域行事との連携

- サマーフェスタや防災訓練など地域行事に参加しており、地域から高く評価さ

れている。

- 地域行事の運営スタッフとして生徒にボランティアとして参加してほしいとの要望があった。これについては、予め行事日程等を共有いただければ募集可能と回答した。

●不祥事防止に向けた職員研修について

- 毎月の職員会議前に、不祥事防止・個人情報管理・成績処理等の研修を実施している。
- 県から指示があれば動画研修等も実施している。
- 本年度、本校では不祥事は発生していない。
- 教員の個人端末で、生徒の撮影を禁止するなど、SNS利用についても適切に研修・指導を実施している。
- 委員からは今後も有意義な研修を実施してほしいとの意見が出た。
- また、教員の働き方改革について、教員の仕事が増えすぎている印象であり、もっと工夫できる面があるのではないかとの意見も出た。

全体会

●委員からの総括

- 授業で生徒が制作した資料をホームページ等で公開すると、学校の学びが外部に伝わりやすいのではないか。
- Instagramとホームページを連動させ、更新しやすくする仕組みも有効との意見。
- 協議会委員向けに、保護者配布プリント等をクラウド上で共有するものを設けてほしい。
- AIの普及に伴い、「課題発見力」「情報の信頼性を見極める力」が重要になるため、レポート評価の充実が望ましい。
- 校則と流行の折り合いを、生徒が納得できる形で検討すべきではないか。などの意見が出された。

校長より

- 全国的に私立高校の勢いが強まっており、公立高校の志願状況にも影響が出ている。
- 本校も本年度は倍率の低下や志願取消が複数確認された。
- 今後、学校内部の魅力向上と広報活動の両面から更なる改善を図りたい。
- 学校協議会での意見を取り入れ、学校を「もう一度作り直す」意識で取り組む。